



2022年7月
七尾市立図書館
友の会発行
責任者
芹田玲子

「三年ぶりに開けました」

図書館まつり中止・コロナ注視の新年度

第五十三回定期総会が五月二十一日相生町の常福寺で開かれ三十四名が参加しました。芹田会長から「三年ぶりに総会を開くことができ感無量です」の挨拶にうなずく人も見られ、来賓である遠藤副図書館長からは暖か



いエールを頂きました。
森令子さんを議長に議案審議は以下のとおりです。
◆三年度の事業・会計報告
【コロナ禍で大きな行事は

できなかったが、『友の会の集い』と『ちよ図ボラ』は感染状況を見ながら続けた。会員数は百三名で、会費計五万一千五百円となった。『本を読む仲間集い』中止でまごころ文庫助成金は通信費を除き返金した』など説明があり、井田監査委員から「会計は適切に処理されていると報告があり、三年度事業会計は拍手多数で承認されました。
◆四年度事業計画案【脱コロナを念頭に『図書館まつり』『本を読む仲間の集い』を柱に計画を立てた。郷土図書出

版事業は適当な著作が見つかるまで予算保留する』などの案が提示され、これも承認されました。
(図書館窓口配布用の議案集を置いてあります)
総会の後日、「図書館まつり」は関係部門の判断で中止が発表され、新年度も新型コロナウイルスに目が離せないスタートとなりました。感染防止は喫緊の課題であり、友の会ではこれまでどおり慎重に行事開催の判断をして行きますので、皆様のご理解ご協力をお願いします。

懐かしい写真にため息

畠山浄さんが七尾古写真の思いを語る

総会に引き続き「ふるさと散歩」行事に移り、常福寺住職の畠山浄さんが「七尾古写真アーカイブ過去未来現在写真帖」と題して講演しました。

「明治の後半から日本に絵葉書ブームが起り、どこにもある街角や何でもない田んぼの景色まで絵葉書になった。街は生き物でどんどん変わって行く。そこに何があっ

て、どんな生活があったかを感ずる手があることが大事で、七尾の古写真の価値もそこにある」とスクリーンに映像を示しながら解説しました。会場からは廃業した商店の懐かしい写真に「アー」とため息が漏れ、感慨深い講演となりました。スマホをお持ちの方もグーグルなどで「七尾古写真」と検索すると

畠山さんの古写真館に入れます。一度お試しく下さい。



経済学者の栗本慎一郎さんが脳梗塞になった。一命を取りとめたが左半身不随となり、リハビリもうまく行かない。藁にもすがる思いで始めたのがミラーセラピーだった。米国の神経科医ラマチャンドラン博士が考案した方法である▼その方法とは。机に伸した両腕の間に鏡を置く。左手に麻痺がある場合は、患者が鏡に写った右手をあたかも左手として見えるよう調節するのが肝心だ。右手を動かすと、不自由な左手も動くように見える。そこで、対面する介助者が患者の左手を持ち右手に合わせて指を動かすのである。この錯覚させる動作が脳を活性化させる。栗本さんは奥さんの助力で社会復帰を果たした。市立図書館には「栗本慎一郎の脳梗塞になったらあなたはどうかする」がある▼今年、知人が脳梗塞で自宅リハビリを始めた。鏡を手に駆けつけると、手足は動くが歩行困難だという。鏡は出番を失ったが彼の頑張りは今まさに本番である。T

思い出の西村賢太さん

汗かき語った「藤沢清造」講演会

今年二月五日に西村賢太さんが亡くなりました。ふるさと文庫館開館一週間前のことです。

文庫館で展示するため、藤沢清造の肖像写真を東京の西村さんに依頼したところ、一月七日に、ご本人が突然、直接持ってきて、職員が仰天したと聞いた矢先の出来事でした。

またその後一月二十九日の清造忌に三十四点もの西村さんの著作や清造関係の資料を寄贈して下さいましたことはとても偶然では済まされな

のを感じます。

西村さんには、今からちょうど十年前の二〇〇二年三月三日、友の会の「本を読む仲間をつどい」で「藤沢清造・その人と文学」と題された講演をしていただいたことがあります。

三十八名の参加者に前に、当時の彼は三十四歳、今の退廃的な(わざと演出された)雰囲気は全くなく、真面目で黒ずくめのスーツに身を包み、汗をかきながら一生懸命「藤沢清造」



を語ってくださいました。

その時取り上げたミニ読書会のテキスト、藤沢清造の「城山のほとり」も西村さんが選んだものでした。清造が郷里七尾の何を懐かしく思っていたのかがよくわかる作品でした。

それから十年、西村さんはみごとに芥川賞を受賞。藤沢清造の生誕地七尾も注目されました。

そして受賞後の十年は、数多の作品を発表、根強いファンを獲得し、駆け抜けるような十年でした。

まだやりたいことが沢山あったであろう西村さんを思うと残念でなりません。

今、西村さんは生前望んだように、西光寺の藤沢清造と並んだお墓に眠

っています。

思い出の西村さんはスタイルも良く颯爽としていました。藤沢清造に光をあて蘇らせて下さった、西村賢太さんに感謝の気持ちでいっぱいです。ご冥福をお祈りします。

(〇)

貸出できます。

◆ 西村賢太さんの講演CD

◆ 「藤沢清造その人と文学」

◆ 藤沢清造著

◆ 「城山のほとり」・音読CD

* 問い合わせは七尾市立図書館へ

(〇七六七五三・〇五八三)



古代蓮

千葉県落合遺跡から出土した弥生後期とされる種子が、東大の大賀一郎博士の手で奇跡的に発芽し、学名「大賀蓮」と名付けられました。この蓮は全国に株分けされ、ここ新潟市の雪梁舎美術館の池でも古代蓮、二千年蓮として人々に親しまれています。

撮影 寺野時雄

この本

お寺の掲示板

江田智昭著 新潮社刊



「ばれているぜ」と墨書された怪しげな表紙。怖いもの見たさに開くと「輝け！お寺の掲示板大賞」の作品集でした。お寺の掲示板の写真やイラストやインスタグラム上に投稿してもらい、そのメッセーجزの有難さやインパクトなどによって優れた作品を選ぼうというものです。

「辛十一幸」「のぞみはありませんが ひかりはあります(新幹線の駅員さん)」など味わいのある掲示板が並んでいます。

続編「お寺の掲示板 諸法無我」の「隣のレジは早い」「ボーツと生きてもいいんだよ」「カーブのファンでいることは修業である」などのことばや文字にも、お寺のセンスがうかがわれます。

さて、うちの近所のお寺の掲示板、今月の言葉は何だったっけ。見て来よう。少し足を伸ばして「掲示板めぐり」をするのもいいかもしれない。(菊)

この本は七尾市立図書館にあります。